

土壌の酸性化に起因するはだか麦の葉枯れを伴う生育障害の発生

山田千津子・宮下武則・村上優浩・大山興央

香川県農業試験場研究報告 第54号(2001年3月) 1-5

1. 香川県内のはだか麦産地において葉枯れ症状を伴う生育障害が発生したので、その原因について、生理障害と土壌病害の両面から検討した。
2. 症状は、分けつ期は生育が悪く、茎立ち開始頃より葉枯れが発生し、草丈、分けつが極端に劣り、短稈で穂数も少なくなり収量は半減する。
3. 発生ほ場の土壌を蒸気消毒しても症状は変化しないので、土壌病害は関与していない。
4. 葉枯れの発生程度の高いほ場の土壌の pH は 4.5 以下と低い。
5. 発生ほ場の土壌 pH を上昇させることで葉枯れが軽微になり、健全ほ場の土壌 pH を低下させることで葉枯れが再現される。
6. 土壌 pH と障害発生との関係では、pH4.5 以下で発生が顕著で、5.0 程度では軽微な葉枯れが発生することもあるが生育収量への影響は小さく、5.7 以上では発生しない。
7. 対策としては、石灰質資材を施用して土壌 pH を 5.5 程度に上昇させるのが有効である。

キーワード：はだか麦，イチバンボシ，酸性障害，土壌 pH，石灰質資材